310PRESS
発行：衆議院議員 柿沢未途
〒135-0047 江東区富岡1-26-21-3F
TEL 03-5620-3104 FAX 03-5620-3105
WebSite 310kakizawa.jp
Twitter @310kakizawa
Vol. 28
2018 年 1 月発行

# 「平成三十年」と「未来の年表」

## 衆議院議員 柿沢未途（みと）

■1971年生まれ、江東区立数矢小、麻布中・高、東京大学法学部 卒業
■NHK記者、都議２期、衆院４期。
■みんなの党政調会長代理、結いの党政調会長、維新の党政調会長・幹事長、民進党役員室長、衆議院予算委員会理事などを歴任
■希望の党政調筆頭副会長、エネルギー調査会事務局長

平成３０年の新年を迎えました。昨年は解散総選挙があり、私自身も苦しい思いも味わった１年でしたが、選挙区である江東区を見ても、明るい気持ちで振り返れない出来事が全国ニュースを駆けめぐり、複雑な思いで年の瀬を迎えられた方も多いのではないでしょうか。

今年は節目となる年であり、また、翌年には天皇陛下のご退位と皇太子さまのご即位、それにともなう改元で、平成から新たな元号の新たな御代に移り変わります。社会全体がまさしく「心機一転」の１年になると思いますし、私自身も、前向きな気持ちで平成３０年の元日を迎えました。

堺屋太一先生の著書に「平成三十年」（朝日文庫）があります。朝日新聞朝刊に１９９７年６月から約１年間にわたって連載された近未来予測小説です。そこに描かれた日本の未来予想図はどのようなものだったでしょうか。

（中面へ続く→）

310PRESS

# 堺屋太一「平成三十年」で描かれてる日本は…

- 国際競争力の低下によって円安が進行、為替レートは1ドル230円に。
- 貿易とサービスの収支は1000億ドルの赤字、国際収支の赤字は500億ドルにのぼり、拡大を続けている。
- 国民1人当たりの国内総生産（GDP）は米国の半分、台湾や韓国に抜かれる。
- インフレと低成長＝スタグフレーションの時代に。消費者物価は20年前の約3倍。
- 平成29年度の国家予算は77兆円の赤字、国債依存度25%。政府債務累計1700兆円。
- 平成28年の出生数が100万人を割る。労働人口5200万人、ピークから約1500万人もの減少。
- 65歳比率27%、3人に1人が65歳以上。
- 税＋社会保障費の負担割合も上昇。給料の4割が税と社会保険料で天引きされる。
- 消費税率は12%、20%へのさらなる増税も視野。
- アジアからの外国人労働者が多くなり、青山・赤坂・虎の門・新橋に「新虎赤青（しんふーちーちん）」と呼ばれるアジア人街ができる。

「平成三十年」の連載から20年。いよいよ平成30年を本当に迎えました。堺屋太一先生の書いた未来がそっくりそのまま当たっているのもありますし、当たっていないのもあります。中国の経済成長のスピードは堺屋先生にも想定外だったようです。中国の旺盛な外需のおかげでわが国は今も貿易黒字国であり続けています。また、石油危機が発生してインフレが進行するとの記述がありますが、化石燃料だけが頼みの綱ではなくなる、自然エネルギーの技術の飛躍的な進展と世界的な広がりというエネルギーシフトまでは読み切れなかったものと思われます。

現時点で当たっていない予測も、まさしくこれから現実化するのかもしれません。

日銀の異次元緩和で供給されたマネーにより政府の国債が買い支えられている現状を見ると、いずれインフレにより帳尻を合わせるしかないと見ている専門家は多いです。消費税率は10%までは確定的となり、その時に入る財源を幼児教育の無償化に2兆円分も先回りしてあて込んでいる状況です。それでいて財政収支が改善する見込みはなく、プライマリーバランス黒字化目標を断念したぐらいですから、この先、さらなる増税も避けられないと見るべきでしょう。

最も当たっているのは、少子化と高齢化、人口減少と地方消滅に関する記述です。

子どもの出生数が100万人を切るという予測は、ズバリ的中してしまいました。私が生まれた昭和46年の出生数は200万人でしたから、産まれる赤ちゃんがちょうど半数になってしまったのです。「3人に1人が65歳以上の高齢者」というのも、今から5年ほど先には現実になります。

加えて言えば、オリンピックイヤーの2020年には、女性の半数が50歳以上という人口構造になり、どれだけ出生率を上げたとしても、ママとなれる年代の女性の「母数」が少なくなるのですから、少子化は固定化された不可避の現実であり続けます。外国人の移民を入れたりでもしない限り、高齢化と人口減少が進みます。労働力人口も、今のままなら2030年には900万人近く、2060年には2800万人近く減少します。一方、現役世代が支えなければならない高齢者はますます長生きとなり、2018年、つまり平成30年には、75歳以上の人口が65～74歳を上回り、やがて2060年代には80歳以上が人口の2割を占める時代となります。年金・医療・介護をどうやって維持できるでしょうか。

これらの数字は、昨年6月に出版され、ベストセラーとなった河合雅司・産経新聞論説委員の「未来の年表」（講談社現代新書）に書かれています。平成30年代、そして2020年代、それは、まさに私達の世代が日本を背負って立つ中核となる年代です。堺屋太一先生の20年前から警鐘を鳴らされていたにもかかわらず、立ち尽くしているまま、不安いっぱいの平成30年を日本は迎えてしまいました。

この先、何が必要か。「未来の年表」を手がかりに、政治家である私達が考え、課題への処方箋を打ち出し、改革を実行していかなければなりません。これまで自民党政権は、表層的なアドバルーンはともかく、これからの日本が迎える避けられない未来の課題を、まっすぐ直視せず、先送りを続けてきました。その意味でも、立ち尽くすのではなく、「心機一転」の1年としなければならないと思います。

（裏面へ続く→）

河合雅司・産経新聞論説委員 著
「未来の年表」（講談社現代新書）

同じ世代の玉木雄一郎代表とともに、政調筆頭副会長として、政策や党のアイデンティティを考えてきました。代表就任のメッセージも、本会議での初の代表質問も、その作成に関わらせて頂きました。いわば玉木代表のスピーチライターのような役回りと言っても良いかもしれません。
それを通じて見えてきたのは、私達は、先送りの時代をこえて、「未来先取り政党」として、これからの２０２０年代を展望し、必要な改革を思い切って提案していく政党でなければならないという事です。苦しい選挙を生き残って、平均４０歳代のメンバーが集い、せっかく新しい政党としてスタートを切ったのです。新しい時代を切りひらく役割を積極的に担っていきたいと思います。その思いを込めて、玉木代表の就任メッセージを下書きしましたので、掲載しておきます。

◆

平成３０年は、明治維新から１５０年の年ともなります。そして、明治維新から７４年目で大東亜戦争の開戦を迎え、焼け野原の敗戦から７４年目となるのが平成３０年です。後から歴史を振り返って、あれが日本のターニングポイントの年だった、と言われる1年になる予感がしています。今を生きる政治家として、悔いを残さないように懸命に働きたいと思います。

# 代表就任にあたって　希望の党代表 玉木雄一郎

希望の党の代表に就任しました。

「新しい歴史を切り開く。」
今、政治家に求められているのは、この気概と信念だと思います。

2020年代には、現役世代2人で1人のお年寄りを支える高齢社会となります。認知症を患う方は700万人。しかも人生100年時代を迎えます。

2020年代には、女性の過半数が50歳以上となり、団塊ジュニアの世代が50歳台を迎えます。赤ちゃんの出生数は200万人から100万人に減少しました。その中で、保育園の待機児童と質の高い教育の保障が社会全体の課題になっています。

2020年代には、中国経済は日本の3倍の規模となり、米国経済を追い抜きます。北朝鮮は核を搭載できるミサイルの発射を繰り返し、国際社会に対する無法な挑発を続けています。ミサイルの射程にある日本列島には54基もの原発が立地しています。

国の債務残高は1000兆円を超えてGDP比200%となり、しかも国債発行額の4割を日銀が保有しています。ところが、国の財政の中長期試算は2023年度以降の見通しが今も示されていません。

いずれも、既成の思考の枠組みでは対処できない、新しい思考を必要とする、未来のわが国が直面する課題にほかなりません。先の大戦から70年、冷戦終結から30年、「新しい歴史」がはじまろうとしています。

私達は、「未来先取り政党」として、わが国の将来を見通しながら、今、必要な改革を、大胆に提案していきます。

本質的な課題を先送りし、未来へのビジョンを示せないまま、その場しのぎの対応を続けてきたわが国。1700兆円の個人金融資産があっても使えないという、未来への不透明感と不安でいっぱいの国になってしまいました。株価が上がって豊かなはずのわが国で、苦しみ、希望を失っている人がいます、地域があります。それを変えるのは、未来を担う、新しい政党の使命と責任です。

今のまま立ちつくしていては、衰退が待っているだけです。過去への後戻りなど論外です。前を向いて、何者にもとらわれず、果敢に挑戦する。そして、失敗をおそれない。思えば、私が小池知事から受け継いだのは、このチャレンジスピリットだと思います。

不可能とは、変化させなければならないという力で世界を切り開くよりも、与えられた世界に安住しようとする、小心者の言葉だ。
不可能とは、現状に甘んじるための言い訳でしかない。
不可能とは、事実ではない。思い込みだ。
不可能とは、宣言するものではない。挑戦するものだ。
不可能とは、可能性だ。
不可能とは、一時のものだ。
不可能など、何もない。　　—モハメド・アリ

今までの政治にかわる新しいモデルを提示し、やがて政権を担う中核の政党をつくりあげる。誰もが「必要だ」と考えるが、しかし「現状では不可能に近い」と誰もが思っているかもしれない、その「不可能への挑戦」を、私は始めます。

そして幸いにも、わが党には思い切って挑戦をできる素晴らしい仲間が集まりました。私は、わが党の未来に楽観的です。

さあ、爽やかに、明るく、元気よく、やろうではありませんか。
開かれた政党をつくっていきます。
どうか、よろしくお願いします。

平成29年11月15日

玉木雄一郎代表とともに（平成29年12月）